

第6回機関リポジトリ推進委員会議事要旨

1. 日時：平成26年10月6日（月）15:00～18:45

2. 場所：学術総合センター 20階 講義室1

3. 出席者：

（委員）

加藤 信哉	筑波大学附属図書館・副館長（委員長）
富田 健市	北海道大学附属図書館・事務部長
杉田 茂樹	千葉大学附属図書館・利用支援企画課・課長
森 一郎	信州大学附属図書館・副館長
大前 富美	大阪府立大学学術情報センター学術情報室・主査
菊池 亮一	明治大学学術・社会連携部図書館総務事務室・事務長
佐藤 翔	同志社大学社会学部教育文化学科・助教
山地 一禎	国立情報学研究所学術ネットワーク研究開発センター（コンテンツ科学研究系）・准教授
相原 雪乃	国立情報学研究所 学術基盤推進部 学術コンテンツ課・課長
高橋 菜奈子	国立情報学研究所 学術基盤推進部 学術コンテンツ課・副課長

（陪席）

尾城 孝一	国立情報学研究所 学術基盤推進部・次長
-------	---------------------

（事務局）

前田 朗	国立情報学研究所 学術基盤推進部 学術コンテンツ課 図書館連携チーム・係長（機関リポジトリ担当）
後迫 久美	国立情報学研究所 学術基盤推進部 学術コンテンツ課 図書館連携チーム・係員（機関リポジトリ担当）

※富田委員、大前委員、佐藤委員はテレビ会議で出席

（欠席）

行木 孝夫	北海道大学大学院理学研究院 数学部門・准教授
池田 大輔	九州大学大学院システム情報科学研究院・准教授
安本 裕和	関西学院大学図書館・事務部長

<配付資料>

第6回機関リポジトリ推進委員会出席者名簿

1. 第4回機関リポジトリ推進委員会議事要旨（案）
2. 第5回機関リポジトリ推進委員会議事要旨（案）
- 3-1. 機関リポジトリ推進委員会ワーキンググループについて
- 3-2. 機関リポジトリ推進委員会ワーキンググループ行動計画（案）
4. 図書館総合展フォーラムの開催について
5. 機関リポジトリコンテンツへのJaLC DOI登録について
- 6-1. 大学の知の発信システムの構築（広報チラシ）
- 6-2. 共用リポジトリサービスの今後の運営モデルと利用料金の徴収について（素案）

- 6-3. JAIRO Cloud への既構築機関受入準備進捗
- 6-4. 博論 CiNii (仮称) の開発報告
- 6-5. オープンアクセス・サミット 2014 (広報チラシ)

4. 議事：

(1) 第4回議事要旨(案)確認

配布資料1について確認し、原案どおり承認された。

(2) 第5回議事要旨(案)確認

配布資料2について確認し、原案どおり承認された。

(3) 機関リポジトリ推進委員会ワーキンググループ平成26年度行動計画について(審議)

事務局から、配付資料3-1に基づき、機関リポジトリ推進委員会ワーキンググループ(WG)の構成と活動内容、スケジュールについて、改めて確認があった。また、各WGの平成26年度行動計画について、WGの主査である杉田委員、富田委員、佐藤委員からそれぞれ説明があった。

その上で、WGの平成26年度行動計画について意見交換を行った。出された意見は、各主査を通してWGのメンバーにフィードバックし、計画や予算の具体化・修正を行うことになった。

また、各WGが相互に連携して活動を行うことが、改めて確認された。

なお、本委員会が出された主な意見は、以下のとおりである。

【コンテンツWG】

<コンテンツ構築ノウハウの継承(とくにJC新規参入館への注入)>

- ・ JAIRO Cloud のマニュアル作成は、WG の活動としてふさわしくない。
- ・ 国内の機関リポジトリコミュニティの調整については、次回の本委員会でDRF代表を呼び、検討を行う。どのような観点から検討するかは次回の委員会までに考える。

<博論電子公開制度の実績評価と課題抽出・解決>

- ・ 博士論文については、WG や委員会の母体等に絞った小規模の模擬調査を行い、課題の整理や、全体への調査が必要かどうかを考えるとよい。
- ・ IRDB に登録されたコンテンツの情報も調査の参考になる。
- ・ 博論を授与しているが機関リポジトリを持っていない大学が博論をどのように公表する計画なのかを調査し、それらの大学へのアプローチを考えるとよい。
- ・ 博論の機関リポジトリでの公表を図書館で行っているか、分野によって博論の公開率に差があるかなど、質問項目も精査する必要がある。

<オープンアクセス方針も視野に入れた学内認知度向上>

- ・ 学内での OA ポリシーを策定し、コンテンツ充実につなげる活動をしてほしい。海外で、大学ではなく図書館が主導してマニフェストを制定した例があれば参考になる。
- ・ 今までのひたひた路線の評価が必要。
- ・ ひたひた路線でコンテンツを収集するのであれば、コンテンツの数だけではなく質(コ

ンテンツの種別など) の考慮も検討したほうがよい。

- ・ 小規模大学ではトップダウンの活動が多いが、大規模大学ではひたひた路線で各学部へマンデートを浸透させるという方法もある。

<リサーチデータの取り扱いに向けた調査>

- ・ メタデータにフォーカスを絞りすぎているため、新しいコンテンツをリポジトリで扱う際の課題など、より大きな視点から調査・検討したほうがよい。
- ・ 翻訳費が必要かは別途検討する。

<コンテンツ WG 全般>

- ・ 国際連携 WG、技術 WG から関係するトピックは横断的に活動したい。

【国際連携 WG】

- ・ 日本として国際会議に参加する意義や目的、日本が海外に貢献したい内容を明確にしたほうがよい。同様に、会議参加の前にもミッションや調査項目を整理しておく必要がある。
- ・ 参加者の人選や参加する会議の優先度を考えたほうがよい。なお、人選については、日本の代表者として継続して同じ人が会議に参加し、海外とのつながりや信頼関係を構築することが必要である。
- ・ COAR との連携については、会費の支払いを含めて再検討する必要がある。

【技術 WG】

- ・ 定期的に TV 会議などを実施してほしい。会議実施にあたっては、コンテンツ WG、国際連携 WG にも参加の募集を行うとよい。
- ・ メタデータを介した Researchmap と機関リポジトリとの連携を行う上で、推奨の ID を何にするかという検討が必要である。
- ・ 今年度は、Researchmap と ROAT 後継機能について開発を実施する予定である。それ以外にも、開発費用が別途必要になる可能性がある。SCPJ 等の今年度の活動は調査にとどめ、開発は行わない。

(4) 図書館総合展フォーラムの開催について (報告)

杉田委員から、配付資料 4 に基づき、図書館総合展フォーラムの開催及び第 3 セッションの事例発表の募集について報告があった。

(5) 機関リポジトリコンテンツへの JaLC DOI 付与について (報告)

事務局から、配付資料 5 に基づき、機関リポジトリのコンテンツへの DOI 登録について進捗状況の報告があり、質疑応答を行った。本件の詳細については、技術 WG で検討を進めることとなった。

(6) その他

- 1) 加藤委員長から、配布資料 6-1 に基づき、第 100 回全国図書館大会東京大会 第 5 分科会の開催について情報提供があった。

- 2) 事務局から、配布資料 6-2 に基づき、JAIRO Cloud の料金徴収についてアンケートを実施中である旨、報告があった。
- 3) 事務局から、配布資料 6-3 に基づき、JAIRO Cloud への既構築機関の受入準備について進捗状況の報告があり、移行受付開始時のスケジュール調整や広報に関して意見交換を行った。
- 4) 事務局から、配布資料 6-4 に基づき、博論 CiNii (仮称) の開発目的、進捗状況について報告があり、博論 CiNii の収集対象となるコンテンツやメタデータに関して質疑応答を行った。
- 5) 事務局から、配布資料 6-5 に基づき、オープンアクセス・サミット 2014 の開催概要について報告があった。
- 6) 次回委員会については、来年 1 月ごろに開催する予定であることが確認された。

以上